

からくり人形レクチャー・デモンストレーションとワークショップを オーストラリアで実施します

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、尾陽木偶師(からくり人形師)の九代目玉屋庄兵衛氏とロボット工学研究者の末松良一氏(豊田工業高等専門学校校長・名古屋大学名誉教授)をオーストラリアに派遣し、豪州国立科学技術センター(クエスタコン)にて、からくり人形紹介事業を実施します。

日程

11月10日(月)、11日(火):(於 クエスタコン ジャパン・シアター/キャンベラ)

小学生向け制作ワークショップ(ミニ茶運び人形、指南車、からくり弁慶)

11月10日(月):(於 オーストラリア国立大学/キャンベラ)

市民向けレクチャー・デモンストレーション

11月11日(火):(於 クエスタコン ジャパン・シアター/キャンベラ)

小学生向けレクチャー・デモンストレーション

11月13日(木):(於 国際交流基金シドニー日本文化センター/シドニー)

市民向けレクチャー・デモンストレーション

11月14日(金):(於 ウィンマリー中学校/ブルーマウンテン;シドニー近郊)

小学生向け制作ワークショップ(ミニ茶運び人形)

九代目玉屋庄兵衛氏が、自身の作品2点(茶運び人形、弓曳き童子)を持参し、実演を通じてからくり人形の魅力を紹介するとともに、ロボット工学第一人者の末松良一氏が、からくり人形の歴史、西洋のオートマタとの比較、ロボットに至る道など様々な面から解説を加えます。現地の小中学生を対象にからくり人形キット制作ワークショップを開き、からくり人形の「超簡易版」づくりを実際に体験しながら、その仕組みを理解する機会を提供します。

【豪州国立科学技術センター(クエスタコン)】

1988年、豪州建国200周年記念日豪共同事業として、総建設費の半分を日本の官民が拠出し、首都キャンベラに「体験型」科学館として設立され、今年設立20周年を迎えました。開館にあたって日本から寄贈された展示品の中には、2体のからくり人形(八代目玉屋庄兵衛作)も含まれています。設立以来、日豪友好の象徴的存在として日本科学未来館や国立科学博物館と密接な関係を築き、年間11万人の児童を含む41万人もの訪問者を集めています(豪州国民の半数がクエスタコンを訪れている計算)。

貴紙・誌にてお取り上げくださいますようお願いいたします。

お問い合わせ

文化事業部 文化企画課 (担当)大内 桃子

TEL:(03)5369-6059 FAX:(03)5369-6036

E-mail: Momoko.Ouchi@jpf.go.jp